

6月議会終わる

「福島原発事故の収束と 原発からの撤退に関する意見書」は 不採択となりました

反対の会派
 議や無議名
 のみや本
 党の会、谷
 明の会、谷
 公の会、谷
 新会、市民
 会、むの谷
 政団、市民
 員、改革、
 未来、所属
 未改所員・
 上34名

六月議会では、党市議団として国に対する二つの意見書を提案。東日本大震災の被災者支援で「生活再建支援法の拡充を求める意見書」は賛成多数で採択されました。表題にある原発問題の意見書は、①福島原発事故収束のために原子力問題の研究者など知恵と技術を総結集すること ②安全基準の確立と体制 ③原発ゼロへのプログラムと自然エネルギーへの転換を進

日本共産党 上田さち子とこども



2011. 7. 17号
 (発行)
 日本共産党市会議員
 上田さち子
 川添町五・十八
 電・三五―二八一三



開院から36年経過した
林田町の中央病院

西宮市立中央病院、移転・新築へ

林田町にある市立中央病院は、老朽化と耐震基準に合わない等から、移転・新築の方針が出ています。

議会の一部から「赤字」を理由に「病院をなくせ」という声もありますが、地域医療の拠点として、小児救急などにも対応できる公立病院として存続が必要です。移転先、黒字への道筋など、特別委員として論議を深めます。

野口幹事長が詳細に提案。

一言の意見も述べず「否決」に!

国民が大きな不安を抱いている問題にもかかわらず、反対した議員の誰一人として、反対理由も述べずに否決。

目を追うごとに原発の存在理由が薄れてきており、今後、も粘り強く議会の同意を得るよう、がんばります。

私のブログ「上田さち子とコーヒータイム」を更新中です。ぜひ、訪問して下さい。お待ちしております。

原発事故で、 西宮市長の対応は？

党議員団の本会議質問で、原発事故についての見解を問われた市長は「原子力事故は、あってはならないことで、誠に残念至極」と。しかし、原発からの撤退については「現時点で、脱原発をいうのは時期尚早」とした。(本井副市長が答弁) その副市長は、「使用済核燃料の処理を人類は未だ確立していない」ことについての質問に「処分方法の情報は持ち合わせていない」と、誠に原発問題の深刻さを理解・学習していないことも明らかになった6月議会でした。



「やらせメール」を追求する笠井衆院議員

七月六日の衆院予算委で、日本共産党の笠井亮衆院議員が、玄海原発再稼働をめぐる九電による「やらせメール」を暴露。菅首相も海江田経産相も「けしからん」と怒ってみせました。

「やらせメール」までして、「安全」を演出する
はかり知れない「原発の危険」

また、いち早く再稼働OKとした、岸本玄海町長の実弟が、この十五年間に五十六億円もの工事を、九電から受注していたことも報じられた。

「原発利益共同体」という利権集団

地震と津波大国である日本に、五十四基もの原発がつくられた背景には、電力会社、(東芝や日立など) 原発メーカー、大手ゼネコン、鉄鋼・セメントメーカー、大銀行など、原発によって利益を得る一部大企業が、原発推進の政治家・特権官僚、一部メディアや「専門家」などと癒着して作り上げる「原発利益共同

我が家は扇風機が大活躍！



原発なくしたい！という一心から、家中の窓を開け放ち、エアコンを使わず扇風機。がんばっています。もちろん、熱中症には気をつけて。

体」があります。今回、九電の玄海原発めぐり、地元町長の親族会社が電力会社から利権を得ていたことは、背後に政治家の影もうかがえるのではないのでしょうか？
原発からの撤退運動とは、まさに、政官財の癒着を断ち切る運動になります。